

天照大神は何故女神か

二年生 『かめさん』がかきました。

1 始めに

天照大神アマテラスオホミカミは何故古事記上では女神かを当時の政治事情から考察していこうと思います。とはいえ先人の見識を寄せ集めてそこに僕の考えをちょこっとのせただけの物ではありません。つまりはこのネタ相当使い古されたネタだったりします。また今回は日本書紀^{*1}は脇に置いておきます。ただ、神様の表記が古事記だったり日本書紀だったりしますが目をつぶってください。まあ、そんな物でも他の記事とは毛色が違う内容ですので軽めに読んでいってください。何故天照大神が女神として描かれているのかを考えていきましょう。また、この会誌に書いている以上僕も神道及び神話の研究は趣味程度ですので間違っていることがあるかもしれませんが、そこは詳しい人あんまり突っ込まないでほしいかなと思います。

2 古事記とは？

この大学は皇學館大学^{*2}でもなく無宗教の大学ですので、古事記とはなんぞやというお話からしていきます。古事記とは、和銅5年(712年)に太安万侶おおのやすまろにより献上された日本最古の歴史書です。上中下の3巻に分かれていて前半(上つ巻)は神様の時代のお話ですが、後半(中つ巻・下つ巻)は人の世の時代の記述になります。また、日本書紀と違い古事記は勅撰^{*3}の正史ではないのですが40代天武天皇が命令したというような記述があります。天武天皇自身は朱鳥元年(686年)に崩御^{*4}されていますので完成を見る前にお隠れになってしまったわけです。今回は、天照大神のお話なので上つ巻をメインにお話ししていくことになります。

3 天照大神って誰？

とりあえず天照大神について知らない人にどんな神様なのかというのをざっくりお話しします。キリスト教徒の人もゾロアスターの人もこういう物が有るんだなあという感じで読んでみてください。

天照大神は伊邪那岐命イザナギ、伊邪那美命イザナミという古事記上初めに出てくる別天神五柱^{*5}の次に出てきた神世七代という神様のグループに入る高位の神様の夫婦によって最後に生まれた三柱三貴子かみよななよの一柱です。夫婦はまず始めに伊邪那美命から声をかけて子をなしますが蛭子^{*6}が生まれ海に流します。その訳を天つ神に聞いた所「女が先に言うのが良くない。もう一度改めて降りて言え」と言います。今度は伊邪那岐命が先に言葉を発して交わると淡道之穂之狭別島あわぢのほのさわけのしま(淡路島)、伊予之二名島いよのふたなのしま(四国)を生みます。その後この夫婦は沢山の神様を生みますが、火之迦具土神ヒノカグツチという神様を生む

*1 古事記と同時期に完成した勅撰の歴史書

*2 伊勢にある日本でも数少ない神道の大学。神宮のお膝元

*3 名目上天皇が編集した物

*4 貴い方が亡くなること

*4 貴い方が亡くなること。

*5 神様を数えるときの数詞数え方は「ひと・ふた・み・よ・いつ・む・なな」

*6 エビスの漢字も蛭子

ときに伊邪那美命が女陰^{ほと}*7を焼かれ避^とつて*8しまいます(このとき糞尿やら吐瀉物から神様が生まれます。農業国の神話は大抵糞尿にまみれていますよ)。伊邪那岐命は妻が子一人と引き替えになったことを悲しみ妻を連れ戻すために黄泉の国に下りますが、伊邪那美命は、「何故もっと早く来てくれなかったのですか。私は黄泉の国の食べ物を食べてしまったためにもう戻れません。*9しかし愛しい伊邪那美命が来てくれたので黄泉神と相談しましょう。その間私の姿を見ないでください。」と言います。しかし伊邪那岐命は心配になって伊邪那美命を見てしまいます。しかし、そこには醜い姿の伊邪那美命が居て「私に恥をかかせましたね。」と言って激怒し追ってきます。それを命から逃げた伊邪那岐命は黄泉の国の入り口を大きな岩でふさぎます。こうして日本初の離婚が成立します。そして、自由に黄泉のくにとこの世を行き来することがなくなりました。

そして伊邪那岐命は黄泉の国の穢れを落とす為^{みそぎ}*10をします。その時に生まれた三貴子が天照大神、月読、須佐之男命です。それぞれ高天原^{たかまのほら}*11、海原、夜の国を治めることとなります。(丁度ゼウス^{ツクヨミ}*12、ポセイドン^{スサノオ}*13、ハーデス^{タカミヤヒ}*14のような感じです。)しかし、須佐之男命は(母を思い)姉に会いたいと高天原に来てしまいます。天照大神は大目に見ていましたが、余りに調子に乗るので悲しんで天の岩戸に隠れてしまいます(実はこの間にも色々あったのですが割愛します。)

天の岩戸に隠れてしまった天照大神にもう一度出てきてもらうために八意思兼神が知恵を絞ります。それは八咫鏡、八咫鏡を作り天兒屋命が祝詞を唱え、天鈿女が相当露出して、踊り、天照大神が気になって少し出てきて「何故私が居ないのに皆楽しそうなのか」と問うと「貴方より貴い神様がいらっしゃったのです。」と、天照大神に八咫鏡を見せます。そこに移った自分の姿がその神様だと考えもっとよく見ようと前に出たとき天手力男神はその手を引き天の岩戸を封印して一件落着きます。

その後色々あるのですが、葦原中国^{あしはらのなかつくに}*15を譲り受けることとなります。その時白羽の矢が立ったのは天照大神の子正勝速日天忍穗耳命(大体は天孫族の山の神様という意味)です。しかしそれを辞退して子の天邇岐志国邇岐志天津日高日子番能邇邇芸命にそのお鉢が回ります(つまり邇邇芸命は天照大神の孫に当たります)。その後、石長比売姫と木花咲耶姫をもらい受けますが、容姿が宜しくない岩のように永遠の命を補償する石長比売姫を退け木花咲耶姫とだけ結婚するので人は花のようにはかない生涯となります。この夫婦の孫が初代天皇神武天皇になります(一応 2600 年前のお話...ということにはなっている)。つまり皇族は(とりあえず)天照大神の直系になります。

4 古事記成立時の皇室事情

古事記成立時代周辺の皇室事情はどうなっていたかという即位する予定であった天武天皇の息子草壁の皇子が若すぎたため天智天皇の娘 41 代持統天皇(女帝)がその中継ぎ役として即位します(他に大田皇女、建皇子という二人の子が居ますが、どちらも夭折しています)。持統天皇は古事記の編纂事業を引き継ぎます。また持統 4(690 年)第一回式年遷宮^{しきねんせんくう}*16をしたりもします。そうこう

*7 女性の陰部

*8 亡くなること

*9 黄泉の国の食べ物を食べると正式にその住人となるという神話世界での良くあるパターン(ペルセポネー神話(ペルセポネーが冥界でザクロの実を 12 個中 4~6 個食べたため一年の $\frac{4\sim 6}{12}$ は冬となった)等)

*10 身を清めること

*11 所謂神様の国

*12 ギリシア神話の主神。天候、雷の神格、オリュンポス十二神の二柱。

*13 ギリシア神話の神。海の神。オリュンポス十二神の二柱。

*14 ギリシア神話の神。冥府の神。後に豊穰の神。オリュンポス十二神の二柱。

*15 所謂人の世界、譲り受けるまでに 3 人の領主を下した

*16 神宮の建物を建て替える等する 20 年に一度の大祭

しているうちに草壁の皇子は夭折(ようせつ)^{*17}してしまいます。というわけで皇位は草壁の皇子の子^{かるのみこ}軽皇子が42代文武天皇として即位しました。この持統天皇から文武天皇への皇位継承は祖母から孫への継承なのですが前例がないので納得させるのは難しかったようです。しかし、ないならば前例を作ればいい丁度古事記編纂中という事でちょっと手を加えた可能性が考えられます。それが天孫降臨に被ってくるという説です。そして文武天皇が早くに崩御してしまいます。じゃあ今度はその子はというと当然若くしてお隠れになったため子も幼いわけです。その中継ぎ役として43代元明天皇(女帝)(在位慶雲4年(707年)和銅8年(715年)44代元正天皇(女帝)(靈龜元年(715年) - 養老8年(724年))が即位します。元明天皇の時代に古事記は献上されたわけです。ところで、元明天皇から元正天皇へは母から娘へと女系での皇位継承となりますが元正天皇の父親は草壁の皇子ですから男系^{*18}は維持されています。この二人の時代は飛鳥時代から奈良時代への移行期でもあります。

5 天照大神が女神であるという事

全章のように5代中3代女帝が即位していたのが古事記の周辺の皇室の事情になります。その後も46代孝謙天皇48代称徳天皇と女帝が続きます。そしてその後は109代明正天皇まで女性天皇は即位しません。神代から男性天皇で継いできた天皇の流れにここで女性天皇が沢山のそれも母から娘への皇位継承という物も入ってきてしまいます。これはかなりまずいと沢山の反対があったと考えられないでしょうか。ということは「前例をつくって納得させようと考えてもおかしくはない」とそう考えられます。だったら日本の最高神を女神にしまおうと言う話になっても不思議ではないということになるわけです。(あくまで一つの説です。)

また、天照大神は持統天皇がモデルという人もいます。つまり、伊邪那岐命は天智天皇、伊邪那美命は^{あまのいらつめ}遠智娘^{*19}、天照大神は前述の通り持統天皇で月読は大田皇女になります。最後に須佐之男命が建皇子の理想の姿だと言うことです。すると天照大神は丁度孫、邇邇芸命に天孫降臨させて葦原中国のトップにさせていますから丁度持統天皇が孫に皇位を渡したことに被るというわけです。

他に第33代推古天皇(在位崇峻天皇5年(593年) - 推古天皇36-37年(628-629年))に天照大神のモデルを求める説もあります。推古天皇は歴史上最初の女帝に当たります。つまり持統天皇以上の抵抗があったはずで、そこであの聖徳太子と蘇我馬子は国旗の編纂にその根拠を求めたと言うことになります。

6 本当に男神だったの?

この説を信用すると前例を作るという事は元々そこには前例にそぐわない物が有ったはずで、つまり元々天照大神は男神として祀られていたという事が前例を作るためには必要になってきます。ではこれはどうなっているのでしょうか。まず天照大神は別名を^{アマテラシマススメラオオミカミノミタマ}天照坐皇大御神御魂といます。これは^{あまてらたま}天照魂の三文字を除いて全て敬称になっています。この天照魂は^{ホアカリ}火明命の別名であります。この神様は邇邇芸命の兄で邇邇芸命自身と同一とされた神になります。つまり天照大神は元々天邇岐志国邇岐志天津日高日子番能邇邇芸命と同一であったと考えて差し支えないでしょう。つまりは、元々確かに天照坐皇大御神御魂(=天照大神)は男神であったという事になります。ま

*17 若くして亡くなること

*18 父親が皇族であること

*19 天智天皇の妻で持統天皇の母

た、神宮^{*20}近くの山神路山は天照山と呼ばれていた経歴がありましたし、神宮でも神風仙大神として風神雷神の神格で祀られていました。(要は元々は天照大神の神格は自然現象全体を包括していたということです) また、朝廷から神宮へ献上される御神服は男性用であったようです。

ところで、同じ神様が別々の名前が出てくるなんてそんなことあるわけがないと思う方もいるかと思いますが、これがそうでもなく世界各地で結構あります。例えば蠅の王ベルゼブブは元々パール・ゼブルという嵐と慈雨の神でありました。(キリスト教の影響により神格が分かれた例)

さらに古事記は陰陽二元論が冒頭で示されています。更に伊邪那美命が先に言葉を発したら失敗した訳なのでどう考えてもこの時点で男性優位です。とすれば太陽は陽、月は陰ですから太陽神天照大神は男であるはずです。ギリシア神話のアポロン^{*21}とアルテミス^{*22}等他の神話でも太陽神は男性、月の神は女性である事が多いです。

参考文献

- [1] 本神話の神々 そのルーツとご利益 戸部民夫 ISBN4-284-03126-2
- [2] 々のふるさと 神話のナゾを探る 筑紫申真
- [3] 勢神宮 <http://www.isejingu.or.jp/shikinensengu/>

*20 伊勢神宮のこと(かつ正式名称)

*21 ギリシアの太陽神、元は予言、牧畜、音楽、弓矢の神。オリュン波斯十二神の一柱。

*22 ギリシア神話の月の女神、狩猟の神。オリュン波斯十二神の一柱。